

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC News No. 88を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■ [随想](#)

◇モザンビーク共和国旅行記（6）－洗車－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇PVC News No. 88を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

3月14日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は [PVC News No.88](#) を発行しました。今号の「トップニュース」は、神戸で開催された(一社)日本化学工業協会(日化協)主催の理科教員セミナーの様子を紹介しています。

No. 88号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

日化協主催の理科教員セミナーに協力参加/VEC

－ 実験を交えて「授業に役立つプラスチックの基礎知識」を説明 －

○シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

「日本のものづくり」を守りたい

－ 世界の動きを注視して、積極的に外にでること。

それが「ものづくり」の力を育てる －

(株)ハイビックス 代表取締役社長

IFAI 国際産業ファブリック協会ジャパン 会長 高井 順子 氏

○リサイクルの現場から

大協化成工業(株)のプラスチック壁紙リサイクルシステム

－ 酵素の力で樹脂と紙を分離。シンプルで安全なバイオ型新技術 －

○インフォメーション

1. 塩ビ管・継手リサイクル事業の運用状況と再構築

－ 「契約中間処理会社」の拡充で、効率的運用へシステム見直し －

(塩化ビニル管・継手協会)

2. 「アンビエンテ 2014」にソフトPVCの〈awa〉出展

－ ジャパンクリエイティブのプロジェクト。

日本のものづくりと海外のデザインがコラボ －

○塩ビ最前線

(株)森工芸に見るシルクスクリーン印刷の今

－ 熟練の人間力と一貫生産体制を武器に「高品質、低価格、最短納期」を実現 －

○広報だより

・「エコプロダクツ 2013」に7年連続出展 (VEC・JPEC)

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「さきがけびとにきく」は塩ビの加工メーカーである(株)ハイビックスの高井社長に登場頂きました。高井さんは国際産業ファブリック協会ジャパンの会長でもあり、日本だけでなく世界各国から会員が相互に縦横の新しい情報を交換する、それが経営の視野を広げるのには大事と語っておられました。

一方でハイビックス社は「ふくらませる」技術を追求している会社です。しかし空気物は夏場はレジャー用が多く売れるものの、冬場は売れにくいというので、全天候型の製品を探していたところ、高井社長の実際の介護経験が生かされ医療・介護製品を開発し、季節に左右されない製品にたどりついたそうです。

「リサイクルの現場から」は、新たな壁紙リサイクル技術の紹介をしています。

壁紙を適当な大きさにカットし、酵素を入れ業務用の洗濯機で洗浄すると、壁紙が塩ビと紙に分離する技術です。

開発した大協化成工業(株)はプラスチック加工に用いられる安定剤メーカーで、会長のひらめきで壁紙を分離する方法を思いつき試行錯誤を繰り返し試験プラントを製作。仕組みは業務用の洗濯機の中にお湯とともに酵素を入れて、洗濯機を回転させるだけで塩ビと紙に分離することが出来ます。この技術は壁紙だけでなく、塩ビレザーにも応用でき分離出来ることがわかっています。

「インフォメーション」は二本立てとし一つ目は「塩ビ管・継手リサイクル事業の運用状況と再構築」とし、平成10年から塩化ビニル管・継手協会で行っているリサイクル事業では「契約中間処理会社」の拡充が進んでいるため、使用後の製品を、中間受入場を介さず、直接、処理工場に運び込み全体としての効率化を図ることとしたことを発表しています。

二つ目はフランクフルトで開催された「アンビエンテ2014」にソフトPVCの〈awa〉が出展されたことを紹介しています。

今回の〈awa〉のプロジェクトはVECに対し、(一社)ジャパンクリエイティブからソフトPVCを用いた提案があったことからスタートしたもので、フランス人建築家エマニュエル・ムホーさんのデザインとシート製作パーツの加工など塩ビ業界のコラボにより制作されました。



〈awa〉と建築家ムホーさん

『PVCニュース』は[JPECのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

■ 随想

◇モザンビーク共和国旅行記(6)ー洗車ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

これまでも、アフリカや中近東の人は意外ときれい好きだとお伝えしてきました。ここモザンビークは車の綺麗さでは抜きん出ています。もしかすると、世界でも有数の車の綺麗さを誇る日本以上かもしれません。

開業資金も設備投資も技術もいらず、すぐに開業できる職業、それは洗車屋さんです。これまでも色々な国で洗車屋さんを見てきましたが、モザンビークの洗車さんが一番丁寧な仕事をしています。

車体や窓ガラスの洗車だけでなく、粘土質を含んだ赤土の中を走るため、ほとんどの車はタイヤやホイール、タイヤが付いているタイヤハウスの内側には赤土がこびりついています。これらの汚れも完全に落とし、ちょっと余計にお金を払えば車内清掃もやってくれます。フロントのグリル周りの細かい隙間も、ドア周りの細かい部分も、布やスポンジ、ブラシなどいろいろなものを駆使して、丁寧に掃除をしてくれます。

普通乗用車 1 台当りの洗車料金は日本円で 20 円~40 円ほど。首都マプトに限らず、道路には必ずと言っていいほど洗車さんがいます。ちょっと駐車して用事を済ませる間でも気軽に頼める料金です。

ただ、あまりにも洗車で磨きすぎて、塗装面に、所謂、磨き傷が付いてしまった車が多く、綺麗なのですが、よく見ると細かい傷が沢山付いており車体の輝きがなんとなく鈍い。磨き過ぎには注意しましょう。

それと洗車さんで気になったのは、洗車に使う水。道路脇で水汲みをしている洗車さん。それって、漏水している下水の水ではありませんか？ 洗うときには洗剤を入れるから、いいかあ (^O^)

都市部でも、日本のようにきちんと舗装された道路はほとんどなく、舗装されていたとしてもメンテナンスが行われていないため路面は荒れ放題、穴だらけ。このため、パンクやタイヤがすぐにだめになってしまうため、道路沿いにはタイヤ屋さんも多く見かけます。

タイヤはほとんどが中国製ですが、驚くほど安いです。もちろん、所得が違うので、あくまでも為替レートで日本の金額に直して比較をしているだけですが、一般的な乗用車（プリウスクラス）に使われているサイズのタイヤが 1 本 2,000 円。道のない、草原や悪路でも走れる RV 車（ジープやランドクルーザー）に使われる大型のタイヤでも 1 本 8,000 円ほど。すり減ったタイヤの表面だけを新しいものに貼り換えた再生タイヤは一般的な乗用車のサイズで 1 本 800 円ほど。日本で買う自転車のタイヤより安い！
こんなタイヤで走って、本当に大丈夫なのでしょうかと問うより、原価はいくら？

そのような中、モザンビークで初めて見る車関係の仕事がありました。それはバックミラー修理屋さん。

日本ではめったにありませんが、舗装をされていない悪路を走ると、自分の車、前を走る、或いは対向車のタイヤが石を跳ねバックミラーを割ってしまうことがあります。この割れたバックミラーをその場で修理してくれるのです。

方法は簡単です。割れたバックミラーを外し、元の形をよく覚えます。次に普通の鏡に（多分、捨てられた鏡台などから外した鏡）に先程覚えたバックミラーの形に石で傷を付けます。ここからが職人技なのですが、コンコンとそこらへんに転がっている石を使い、先程、バックミラーの形に傷をつけた鏡を傷に沿って器用に周りを割っていきます。この間、約 15 分。ほぼバックミラーの形に切り出した（割り出した？）鏡を車のバックミラーが付いている場所に実際に嵌め込み、紙やすりを使って最終仕上げ。仕上がったら両面接着テープで元の位置にペタンと貼って出来上がり。全部で 30 分もかかりません。

バックミラー修理屋さん曰く、「どんな形のバックミラーでもその場で作って交換修理するよ」。

でも、車のバックミラー、眩しくないようにコーティングがしてあったり、より広い範囲が見えるよう、湾曲していたり、雨粒が付いてもすぐに流れ落ちるようないろいろな技が使われているのですが。。

普通の鏡（平面鏡）にすると、見え方もかなり違ってしまおうと思うのですが、モザンビークの人は気にしないのでしょうか？

しばらく、お店、といっても道路脇に椅子と道具箱を置いていただけですが、を見ていましたが、結構繁盛しているようでした。

車繫がりと言うことでは、モザンビークでよく見かけたのは、自転車に乗った人が信号待ちをしているトラックの荷台の後ろをヒョイと掴み、そのまま走り出したトラックに引っ張ってもらったまま走っていく風景です。

自転車と言っても日本のようにきちんと整備をしているようには見えませんし、路面もあれだけ荒れているのに、トラックと同じ速度で走って大丈夫なのでしょう？

トラックの荷台を掴んで走っている自転車の運転者、なぜか目が合うと、ちょっとバツの悪そうな顔をして、はにかむような笑いを返してきました。

ありゃ、外国人に見られちゃったよ、とでも思ったのでしょうか？

(つづく)

次回は、(7) -教育- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

消費税が 5%から 8%に上がるまであと 10 日程となりました。消費者は上がる前に物を買ひ、売る側もこの機会を逃がさないよう努めているようです。近くのスーパーでは今まであまり見かけなかった段ボール箱入りのジュースや洗剤が売られ、折込チラシも新聞受けに入らないほど増加しています。我が家でもつつい買ってしまっているようで、在庫が増加しているようです。買いだめや、先買いは無駄になることも多いとは思いますが、買ってしまふのが人間心理ですね。このような需要増が、久しぶりのベースアップと合わさって停滞感からの脱却に繋がることを期待しています。(可)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp